

府中市健康地域づくり審議会
第5回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年12月18日（水）19：00～20：30
- 2 場 所：府中市役所3階第3会議室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 平 地 緑（分科会委員）
宗 藤 正 典（分科会委員）
大 川 幸 雄（府中市教育委員会学校教育課）
川 崎 朱 実（府中市上下保育所）
徳 毛 恵 子（府中市子育て支援センター）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事「府中市子ども・子育て支援事業計画」策定への考え方
 - ①概要説明
 - ②アンケート調査票について
 - ③質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

Q；認定こども園とは何か？

A；幼稚園は文科省、保育所(園)は厚労省の管轄となっているが、認定こども園は両者の良いところを併せ持つ施設。財源を一本化することで給付をしやすくすることもねらいとしてある。

Q；府中市は認定こども園移行についてどのような方針か？

A；具体的な予定はないが、ニーズを鑑み検討する。

Q；量の見込みを設定するための調査とあるが、量の見込みとは具体的に何を指すか？

A；幼稚園や保育所(園)等に代表される教育や保育の需要量、また一時預かりや休日保育などの特別保育についても需要量の見込みを設定する。

Q；私立保育園において認定こども園への移行は必須であるのか？

A；明確に定める予定はない。地域のニーズに合った府中市らしい幼稚園、保育所(園)を目指していければよいと考えている。

Q；アンケート調査について、子育て支援センターに加え児童館の利用状況も調査すべきでは？

A；アンケート調査項目に反映するよう検討する。

- Q ; 調査の対象となる児童数は 1,000 人とあるが母数はどのくらいか？
- A ; 未就学児童が 1,853 人、小学生が 2,082 人である。
- Q ; アンケート調査について、国のひな型では何項目あるのか？
- A ; 69 項目あり、その内 28 項目が見込量の算出に必要となる項目だ。
- Q ; パブリックコメントの前に、市民へ直接ヒアリングを行い、ニーズを把握してはどうか？
- A ; スケジュールとの兼ね合いもあるため難しいかもしれない。
- Q ; アンケート調査について、保護者が家を出る時刻や帰宅時刻を問う設問があるが、3 交代勤務の方などにも配慮した設問にしてはどうか？
- 上下保育所を利用している方にも夜間勤務の方は多い。とはいえ、夜間保育のニーズが高いわけではなく、祖父母等の協力を得ながら子育てを行っておられる方が多い。家庭が子育ての一義的責任を持つという認識は持っているべき。
- A ; 勤務時間を問う設問については、自由記述を設けるなどで対応したい。
- Q ; アンケートの回収率を上げる工夫はあるか？
- A ; 幼稚園や保育所(園)に回収ボックスを設けたり、広報に調査のお願いを掲載したりすることを検討している。
- Q ; 前回の回収率はどのくらいか？
- A ; 前回は 55% の回収率であった。
- Q ; ファミリー・サポート事業では、相談業務を行っていないのか？
- A ; ファミリー・サポート事業では行っていない。放課後児童クラブの終了時刻までに仕事が終わらない家庭に対し、お子さんの送迎を代わりに行ったり、保育事業等の実施時間外のお子さんの預かりなどで手助けを行っている。
- Q ; 上下地域でもファミリー・サポート事業は行われているのか？
- A ; 行われている。
- Q ; 放課後子ども教室は府中市で実施されているのか？
- A ; 小学校の空き教室などを活用し、市内 3 カ所で実施している。田んぼアートや大学生によるダンス教室などを行っている。
- Q ; アンケート調査票の表紙に、府中市として子育て支援をどのように進める方針にあるのかを記載したらどうか？
- A ; 市の取り組みを PR できるよう、工夫をしたい。
- Q ; アンケート調査数は適切であるか？
- A ; 社会調査として信頼できる結果を得るのに十分な配布数を確保している。
- Q ; アンケート調査について、もう少し見やすいもの、答えたくなるものにしてほしい。
- A ; イラストを挿入するなど、より見やすく興味のわくものとなるよう修正を加える。

Q ; アンケート内に「宛名のお子さん」という文言がたびたび登場する。表紙に宛名のお子さんについて回答いただく旨の注意書きを記載し、本文には「宛名の」という文言を省いてもよいのでは？

Q ; 本文にも「宛名のお子さん」と記載した方が、複数お子さんがいらっしゃる保護者の方には回答しやすいのでは？ 誰について回答すればよいか迷わなくて済む。

A ; どのお子さんについて回答するか迷う可能性がある箇所には「宛名の」を加えることで対応する。

(4) 閉会 分科会副会長あいさつ